

On your side

<https://toyono-jinikyoo.com/>

3

令和3年度(2021年度)
子ども主体の授業づくり②
(中堅教諭等資質向上研修)

第3回10年経験者研修は、8月3日小学校班、4日中学校班の校種ごとに大阪教育大学附属池田小・中学校を会場に、初任者と合同で実施をしました(通称・コラボ研修)。この日にむけて初任者の先生方は模擬授業の準備を進めてきました。当日は少し緊張気味でしたが、10年研の先生方の司会進行や指導・助言によって和やかな雰囲気で開催しました。今回の研修では、授業づくりの協議、指導・助言を通して、第1・2回の講義や演習で学んだ「ミドルリーダーとしての役割」、「メンタリング・コーチング」の具体を考える研修になりました。

～ 初任者の振り返りシートより ～

10年目の先生方から、私たちだけでは気づけなかった点や改善点を見つけていただき、指導してもらうことができました。また、たくさんのアドバイスをいただいたり、よいところを見つけていただいたりして、自身のモチベーションにもつながっていきました。長年の経験をされてきたからこそその貴重なアドバイスを自身の中で常に念頭に置いておこうと思います。

模擬授業を通して10年目の先生方から様々な意見をいただいていたくさんの学びになりました。今回、先生方にほめてもらったことは自信にして、2学期もがんばっていきなさいと思います。

10年目の先生方に児童役をしていただき、子どもの視点でどこからが難しく感じるのかなど具体的なアドバイスをいただくことができました。

10年目の先生の言葉で、「導入はおもしろいけど、展開でもねらいを見失わないようにしなければならない」という言葉が印象に残りました。ねらいをしっかりとっておくことや、ゴールから逆算して展開を考えていく必要があると感じました。

一人で授業を考えるのではなく、いろんな先生に授業を観てもらってアドバイスをいただくことは自分自身のスキルアップにつながると感じました。意外と自分が意識していなかったクセや子どもたちへの関わり方が分かったので2学期に活かしたいと思いました。

10年目の先生方からのアドバイスは本当に的確で、自分自身の課題と向き合うよい機会となりました。自分の気づいている課題、気づいていなかった課題の両方をしっかりと持って、2学期の授業に挑みたいと思います。

10年目の先生方とゆっくりお話すること時間が貴重で、普段の学級経営や、授業中や授業づくりで大切にしていることなどを聞くことができ、とてもよかったです。一番印象に残っていることは「一人ひとりを知る」ということで、自分自身まだまだ子どもたちのことを知ることができていないと改めて痛感しました。足りていないところだらけなので、少しずつ成長できるようにがんばります。

ほめられるとうれしいのは、大人も子どもも同じですね。同様にはっきり言うてもらうことで気づくこともあると思います。必要なのは「気にかけること」であって、先輩が気にかけてくれていることが伝わると初任者はうれしいはず。ささいなことでも先輩に声をかけてもらったり、ちょっとした時間で子どもの話や授業の話が先輩とできることは、うれしかったなあと思えることもあるでしょう。みなさんは初任者のとき「先輩に話を聞いてもらいたい派」でしたか？それとも、「先輩の話を聞きたい派」でしたか？少しこの機会に振り返ってみてはどうでしょうか。



～ 10年研の振り返りシートより ～

普段、児童のことを考え授業を進めているつもりでも、やはり児童の側で考えることを忘れがちになり、発言や指示をおこなうことが多くなっているなど感じました。今回、先生に声をかけてもらったり自分の発言に肯定的に反応してもらったりすることで自信になり、また頑張ろうと思えるのかなと思いました。

4人の初任者の模擬授業を見て、日々いろいろと考え目の前の子どもと真摯に向き合い取り組んでおられるのだなあと感じ、伝わってくるような時間でした。授業を一つ作るのにうまくいかないことや自分の想定をこえるようなことが起きると思うのですが、その時に相談できたり困ったことを共有できるような関係性を職場で築いていきたいと思います。

初任者の模擬授業を見て、討議する中で、自分自身が授業をつくる上で何を大切にしているかを見つめ直す機会になりました。また、初任者の方に助言やアドバイスをする際、自分の経験を振り返りながらどうしていくといいか、また、どんなところがよかったかを伝えていくことができました。そうやって経験を振り返ることで、これまでの10年間で学んだことを活かしているということに気づきました。自分自身の経験をもとに、これからも向上していきたいと感じました。

初任者の先生、本当に頑張っていました。子どもたちへの声かけが温かく、子ども役をしていて居心地が良かったです。何を学ばせたいかを考え、子どもの実態に合わせて授業を組むのは難しいですが、そこがおもしろいところだと再認識しました。10年目の先生のアドバイスを聞いて、私も勉強になりました。普段から言い合える（伝え合える）職場がいいですね。

初任者にアドバイスをしながらも、自分自身の普段の取り組みの中での反省点も見えてきた気がするので、これからも初心を忘れずに頑張っていこうと感じるよい機会になりました。初任者の先生方、今日はお疲れ様でした。これからも一緒に頑張っていきましょう。

コラボ研修だから他者の意見を取り入れて授業に活かすのではなく、普段の学校内においても教科をこえて意見交換や情報共有がどの学校においてもできれば人材は育っていくと思います。教員になりたい人が減っている中で、ミドルリーダーの役割は本当に大きくなってきていると思います。

これらの振り返りは、まさにコラボ研修のねらい・意図するところだと思います。初任者と合同で研修を実施し、授業づくりや教材について、子どもたちのことを話し合うことをきっかけに、改めて10年の経験におごることなくこれからも学び続けることを大切にしてほしいです。

また、経験の少ない先生への指導・助言は、引き続き今後も所属校等でおこなってほしいです。表面の初任者の振り返りシートの記述にもありましたが、なかなか先輩と話す機会持ちにくい環境の方もいるようです。同僚性を高め、自身のミドルリーダーとしての役割の自覚や、ミドルリーダーとして自分にできることを考える機会にしましょう。

「子どもとともに学び続ける教職員」という豊能地区がめざす教職員像（*研修の手引1ページ参照）をこれからも意識して、引き続き10年経験者研修と一緒に実りある学びの機会にしましょう。



お知らせ（今後の研修受講について）

3市2町合同で実施する研修（共通研修）は次回が最終回です。事前課題として「研修成果レポート」（*「研修の手引」P. 17～18掲載の【様式6】）を作成し、事前に各市町が定める期日までに提出してください。また、選択研修の相互交流研修一覧については協議会ホームページ（<https://toyono-jinjikyo.com>）に掲載・随時更新をしていますので、受講の際にはご確認ください。年度末の「研修実施報告書」（*「研修の手引」P. 13～15掲載の【様式4】）の作成・提出にむけて計画的に受講を進めましょう。